

さらさら星

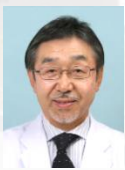
【第5号】2016.11.24 発行

市立旭川病院「胸部外科」のご紹介

昭和46年（1971年）に道北初の心臓血管外科として開設され、今日まで高度な心臓血管外科手術を提供し続けており、5,000例を超える体外循環下手術の経験があります。また、人工心肺を用いないオフポンプ手術や小切開手術、大動脈瘤ではステントグラフトなど低侵襲治療にも力を注いでいます。

新生児から超高齢者の心臓から末梢血管まで、あらゆる心臓血管外科疾患に対する地域の幅広いニーズに応えられるよう、これからも努めてまいります。

担当医師



病院事業管理者
青木 秀俊



診療部長
村上 達哉



診療部長
宮武 司



診療部長
奥山 淳



医長
内藤 祐嗣



医員
新井 洋輔

診療分野

先天性心疾患	総肺静脈還流異常症、左心低形成症候群、ファロー四徴症、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、動脈管開存症 など
後天性心疾患	虚血性心疾患、弁膜症、収縮性心膜炎、心臓瘍 など
不整脈の外科治療	心房細動に対するMaze手術、ペースメーカー植え込み手術 など
大動脈疾患	胸部大動脈瘤、大動脈解離 など
末梢血管疾患	腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症(ASO)、バージャー病、急性動脈閉塞 など
静脈疾患	下肢静脈瘤、深部静脈血栓症 など
縦隔胸壁疾患	縦隔腫瘍、胸壁腫瘍 など
胸部外傷	外傷性血気胸、肺挫傷 など

市立旭川病院 認定看護師のご紹介

認定看護師は、高度化し専門分化が進む医療の現場において、水準の高い看護を実践できると認められた看護師です。公益社団法人日本看護協会が定める教育を修め、認定審査に合格することで資格を取得できるもので、現在21の認定看護分野があります。

当院の認定看護師も、患者・家族の皆さんによりよい看護を提供できるよう、専門性を発揮しながら看護の質の向上に努めています。

感染管理認定看護師

医療安全管理課 桐 則行

感染管理認定看護師の役割は、治療を目的に受診や入院した患者さんが別な感染症に罹らないようにすることです。例えば入院中インフルエンザに罹らない為に全員にマスクをしてもらう、時には部屋を分けるなどの管理を行います。また環境の整理・整頓・清潔・清掃などの「5S」を行い、汚染のない環境作りをします。それらに対応するのが感染管理認定看護師です。



緩和ケア認定看護師

緩和ケア外来 外川 仁美

がん患者さんの症状緩和やご家族のケアなどを外来・入院患者さんに緩和ケアチームの一員として関わっています。特に力を入れているのは、上肢リンパ浮腫ケアです。平成24年4月より認定看護師による看護専門外来の中でリンパ浮腫外来を開設しケアを行っています。



東病棟6階ナースステーション 畠山 美樹

平成27年4月から東病棟6階ナースステーションで勤務しています。がんと診断され身体や心に苦痛がある患者さんやご家族に対し、症状を緩和しその人らしく過ごせるよう共に考えケアを提供していきたいと考えています。外来・病棟で気軽に声をおかけください。



糖尿病看護認定看護師

糖尿病センター外来 増田 千絵

糖尿病看護認定看護師は、糖尿病をもつ人が生涯にわたり糖尿病と上手く付き合いながら生活することを支援するエキスパートナースです。糖尿病治療の基本である食事、運動、薬物療法を自分らしく生活に取り入れられる方法を一緒に考えていきます。また、地域住民に向けて糖尿病発症予防の活動も行っています。糖尿病についてのご相談はお任せください。



皮膚・排泄ケア認定看護師

専従褥瘡管理者 大崎 希世子

ストーマ（消化器・泌尿器）を作られた方の皮膚トラブルや日常生活の相談、失禁などによる皮膚トラブル・床ずれ（褥瘡）の予防対策や処置方法などについてお悩みをお持ちの方の相談に応じ快適な生活を過ごすためのお手伝いをしています。



東病棟5階ナースステーション 菅原 あゆみ

皮膚・排泄ケア認定看護師は皮膚トラブルの予防やケア、排泄に関する援助をおこない、より健やかな生活ができるように援助します。現在は病棟に勤務し、ストーマを作られた方の支援や床ずれ（褥瘡）の予防・ケア、そのほか皮膚トラブルやスキンケアのご相談をお受けしています。



手術看護認定看護師

手術室ナースステーション 中西 香織

手術を受けられる患者さんが、体温の低下や床ずれ（褥瘡）の発生等の手術による合併症が起きないように、安全な手術と安心を提供できるように、他部門・他職種と協働しています。「手術看護」という名称ではありますが、手術を目的とし入院する患者さんの手術前から手術後までの全過程において、その役割を発揮できるよう邁進しています。手術に関して不安や疑問等ありましたら気軽にご相談ください。



がん化学療法看護認定看護師

化学療法センター外来 鈴木 慎太郎

平成27年にがん化学療法看護認定看護師の資格を取得し、現在は化学療法センターで心を込めた看護を笑顔で提供しています。患者さんが確実に安全かつ安楽に抗がん剤治療を受けられるよう、投薬および副作用症状の管理を行うと共に、その人らしく日常生活を送れるよう、ご家族も含めた心理的サポートを実践しています。不安や疑問などありましたらいつでもご連絡ください。



がん放射線療法看護認定看護師

放射線治療科外来 永草 麻由美

放射線治療を受けられる患者さんが、副作用をできる限り少なくし、その人らしい生活を送れるよう支援しています。患者さんやご家族が、安心して放射線治療を受けられるよう心理的サポートも行っています。放射線治療について、不安や疑問などがありましたら、いつでもご相談ください。



大腸ポリープのガイドラインについての解説【第4回】

近年、日本人の大腸がんは急速に増加しており、がん死亡における大腸がんは男性で第3位、女性では1位を占めています。大腸がんによる死亡を減少させるためには、大腸がんとはどのようなものか、大腸がんの「もと」とされている大腸ポリープについての理解が重要です。

2014年に日本消化器病学会から大腸ポリープガイドラインが刊行されましたが、数回に分けて大腸ポリープガイドラインについてわかりやすく解説したいと考えます。お読み頂き、大腸がん、ポリープの理解を深め、消化器内科医師と一緒に大腸がん、ポリープを克服しましょう。今回は第4回です。

Q4.大腸ポリープの診断はどのように行われるのでしょうか？（図4）

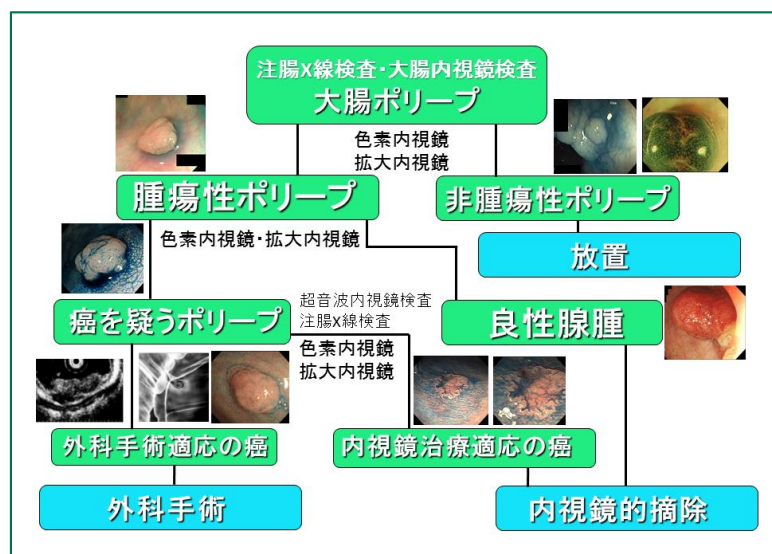


図4 大腸ポリープ診断のフローチャート

注腸造影検査や内視鏡検査でポリープが発見されたら、その病変が「放置してよい病変(非腫瘍性)」か、「治療する必要がある病変(腺腫性)」かを確認します。これには無害な青い色素を病変に散布して内視鏡で観察する「色素内視鏡検査」という方法が用いられます。また、表面の構造がわかりやすくなる特殊な光を当てて見る内視鏡で病変を拡大して観察する方法が用いられることもあります。

治療が必要があると診断された場合は、次にその病変が良性の腺腫か、がんを含む病変(腺腫内がん)かを鑑別します。これは拡大しての内視鏡観察である程度可能ですが、原則的には病変を取ってしまい、その組織を顕微鏡で確認する(病理組織検査)ことで最終的な診断が行われます。

ほとんどの病変は内視鏡による治療のみで完了しますが、がんが疑われて、内視鏡のみで治療が完了するか、外科手術が必要かの判断が難しいときには、注腸造影検査、精密内視鏡検査、さらには病変の内部構造を見るための内視鏡超音波検査などを行い、総合的に判断します。摘出した病変は病理組織検査を行い、がんの進行度を確認します。

副院長 消化器内科 斉藤 裕輔

発 行

市立旭川病院広報委員会
旭川市金星町1丁目1番65号 ☎ (0166) 24-3181
経営管理課 内線 5513
地域医療連携課 内線 5373

きらきら星について

市立病院があるのは金星町。金星はヴィーナス(美の女神)です。皆さんにきらきら輝いてほしいとの願いを込めました。